

中文学会発会式案内の画像紹介

KOTONOHA 編集室

故長田夏樹氏旧蔵の諸資料の中に、中文学会発会式案内のチラシがある。このたび長田家よりその画像をご提供いただいた。手書きのガリ版刷りの案内で、右頁に中文学会創立の挨拶(昭和22年10月20日付)があり、左頁に「発会式と総会兼第一回研究発表会」とある。発会式の日時は「十月二十六日(日)午後二時」、場所は「斯文会講堂(省線御茶ノ水駅下車湯島聖堂内)」。左頁上段に三名(石田幹之助、倉石武四郎、直江廣治)の発表題目があり、下段に25名の委員の名がある。73年前のものである。これを活字に起したものに牛島徳次氏の「「中文学会」覚え書き」¹があるが、現物の画像の掲載はない。研究史の資料として紹介する。

なお、「覚え書き」には中文学会の経緯について詳しい解説がある。中文学会解散の時期について次のようにある。

第3回講演会は、第2回から約2か月後の、1948年1月25日(日)に行われたが、残念ながら、当日の会場、講演者および講演題目など、わたしの手もとには何の資料も残っていない。・・・略・・・。ただし、その後、2月中に追加会費その他で、計約880円入金。これでやっと一息ついたが、会計出納簿の最後には、5月23日、『中文月報』第1号、200部。用紙・印刷代、郵送料、計804円支出。残高54円90銭。と締められ、それ以下は空白になっている。これまた残念、というより遺憾ながら、この『中文月報』第1号も手もとに見つからず、残金の処理も、皆目わからない。

結局、「中文学会」は、このころ(1948〈昭23〉年5月末から6月初めごろまで)流れ解散、自然消滅した、と考えざるを得ない。(178-179頁)

しかしながら、長田夏樹年譜²の1948(昭和23)年7月によると、「中文学会(於東京湯島聖堂)で、「シナチベット語族比較言語学の可能性」と題して研究発表する。」(347頁)とある。このとおりだとすると、中文学会の解散の時期は、1948(昭23)年5月末から6月初めごろではなく、7月に研究会が開かれ、それ以降ということになる。

1947年10月から1948年夏ごろまでの短い期間の活動しかなかった学会ではあるが、「覚え書き」によれば、設立の趣旨はその後生まれた「日本中国学会」に活かされ、わが国における中国文化研究史上、かなり重要な意義を持つという。案内文をここに公表する所以である。

¹ 牛島徳次(1989)「「中文学会」覚え書き」『文学部紀要』(3)、167-184頁。論文のPDFは文教大学リポジトリ(<https://bunkyo.repo.nii.ac.jp/>)に収められている。

² 長田礼子(2011)「長田夏樹年譜」『長田夏樹先生追悼集』東京：好文出版、343-360頁。PDFは古代文字資料館「長田夏樹学術資料庫」(<http://kodaimoji.her.jp/shiryoko/jobun.html>)所収。

拜啓
 秋冷の候愈々御清祥御喜び申上げます。さて今回我々中國文化研究者有志の中より中國の言語とその周辺の諸言語及び中國文化一般の眞摯なる研究と併せて中國語教育の普及とその振興を圖るため、こゝに中文學會なる純學術研究團體が誕生致しました。

従来中國研究諸機関はあまり孤立的或は黨派的であつたため、却つて學術諸分野の連繫進展を妨げて居りました。我々は何人といへども會員となることかでき、又總會に臨み自由なる發言と、常任委員推薦の權利とを與へられたい。かくて構成された常任委員会は民主的討議を行ひ、事務執行機関の活動を助け又批判することにより健全なる發展が期待されるのであります。

思へば中國文化の研究は單に中日の地理的歴史的關係に於いて重要であるのみならず、今日より明日に希望を持つた日本文化形成のため、又中國文化の世界史的意義の闡明發揚のためにも、今日程強く要望されるべきはありませぬ。さすれば我々は眞摯純粹なる學術精神の下に、毎月の研究發表会、隨時のゼミナル、會報の發行等々の諸事業を行ひ、中國文化研究の飛躍的進展を念願するものであります。

各界具眼の士におかせられましては何卒この生れたばかりの研究グループのために篤き御指導と御鞭撻を賜りたく、こゝに委員一同切に御願ひ申上げる次第であります。以上簡單ではあります。中文学會創立の御挨拶を致します。

昭和二十三年十月二十日

中文學會
 東京都文京区小石川町一ノ一
 中華民國學友會館内

委員 (アイウエオ順)

- 市川安司 (東京高校)
- 猪俣庄八 (日本大学)
- 十島徳次 (東京高師)
- 内田道夫 (東京大学)
- 大田辰夫 (紅陵大学)
- 岡本隆三 (横浜経専)
- 長田夏樹 (神奈川師範)
- 鐘江信光 (東京文理大)
- 津谷衡平 (東京文理大)
- 北浦藤郎 (善隣外専)
- 工藤 莖 (東京商大)
- 倉石武四郎 (京大、東大)
- 河野六郎 (一高)
- 小島武男 (東京外専)
- 佐藤 誠 (帝國圖書館)
- 竹田 復 (東京文理大)
- 山中清一郎 (東京外専)
- 藤堂明保 (一高)
- 直江廣治 (東京文理大)
- 永島榮一郎 (東方文化學院)
- 野口榮一 (吉昌社)
- 野村正良 (東京外専)
- 長谷川 寛 (東京外専)
- 波多野太郎 (大東文化)
- 福代権男 (東京外専)

〔附記〕
 發会式、總會兼第一回研究發表会

- 要 項
- 一、日時 十月二十六日(日) 午後二時
 - 一、場所 斯文會講堂(省線御茶、水駅下車 湯島聖堂内)
 - 一、發表
 - 石田幹之助先生 「西米人の中國語研究史」
 - 倉石武四郎先生 「中國語學研究の方向」
 - 直江廣治先生 「北平の民間傳承」
- 以上